

以森伝心

理事長 柏原康夫 筆

No.

37

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

巻頭特集

森と都を結ぶ「筏」

上流と下流を繋ぐ象徴としての復活

—「京筏組」の取り組み

特集2

森林の現状を考える 木材市場

— 木材流通の現場から

インタビュー 北桑木材センター 中坂 昭氏

■ 京都の森の仲間たち
男山区区有林管理委員会

■ 豊かな森を次世代へ
第40回全国育樹祭開催に向けて
京都府内に新たに2つの「緑の少年団」が誕生
森へのリレーメッセージがスタート

森と都を結ぶ「筏」

上流と下流を繋ぐ象徴としての復活
—「京筏組」の取り組み

京都の森と都を結んできた川。川を通じ運ばれた木材などの豊かな森の恵みが都を支え、その対価が山を潤す—
長く支え合ってきた両者の関係は、戦後の社会や経済の変化とともに変貌を遂げました。今、京都で、その象徴である「筏」を復活させる取り組みが広がりを見せています。今回はそのプロジェクトに関わる皆さんにお話を伺いました。

保津川の筏の歴史と木材の流れの変遷

京都盆地は、東、西、北を三峰の山に囲まれています。京の都は、このうち北山の森を基盤にして作られました。丹波高原を水源とする桂川は、上流域は山間部を流れます。森で伐り出された木は筏に生まれ、川を下り運ばれました。



保津川の筏流し：昭和初期の絵葉書

料に指定され、その木材は都の造成に使われました。

江戸時代末期には経済の発達に伴って輸送量も飛躍的に増加し、最盛期には年間60万本もの木材が都へと輸送されました。

こうして大きく栄えた筏流しも、明治・大正期、山陰本線の開通や道路の整備により鉄道やトラック輸送が普及、木材の輸送も川から陸へと移行していくにつれ衰退し、昭和30年代前半には、その長い歴史に幕を下ろしています。



かつて山国から運ばれていた木材の貯木場となっていた嵐山付近 (亀岡市文化資料館所蔵)

保津川筏復活プロジェクトの取り組み

60年の時を経て、平成19年、南丹市日吉町で、かつて京北から嵯峨まで大堰川を流れていた筏を、流域の人々の関心呼び起こすシンボルとして復活させるプロジェクトが行われました。これが、現在の「京筏組 (保津川筏復活プロジェクト連絡協議会)」の契機となります。

プロジェクトのこれまでの取り組み

- 平成19年 日吉ダム (南丹市日吉町) において伝統的な技法による筏の復元
- 平成20年 保津大橋～山本浜 (亀岡市篠町) までの六連の筏流し復活
- 平成23年 一般向け試乗イベント「いかだにのってみよう！」を開始



- 平成26年 保津川下り係留場にて十二連筏の復活



「森が都を支えたということ、都の人にも意識してもらいたい」

「筏をテーマにしていろんな人たちが関わり、森と人との関わりを核に大きなひろがりがあったと思っています。」と話すのは、プロジェクトを当初から知る亀岡市文化資料館館長の黒川さん。

「保津川を下ったのは、木材だけではなく。炭や、米など流域の豊かな農産物なども運び、都を潤しました。」「生活がかわったことで、下流の京都の人が、上流の恵みを意識しなくなっています。丹波の豊かな恵みに支えられて京都があるということを知ってもらってこそ、私たちの取り組みの意味が生きてくると思っています。森が都を支えたということ、京都の人にも意識してもらえれば。」と、同じく同プロジェクトのメンバーである京都学園大学人文学部教授の手塚さんも語ります。



(右) 亀岡市文化資料館館長 黒川孝宏さん
(左) 京都学園大学人文学部教授 手塚恵子さん

「ばいいかと考え、仲間と『プロジェクト保津川』を設立しました。その中で、どうすれば上流と下流を繋げるだろう、というとき、着目したのが筏でした。」

「私たち船頭には400年の歴史がありますが、1900年代初頭に大きな転換期を迎えます。1899年に京都鉄道が園部まで開設し、貨物列車が走り始めると、船が運ぶ荷物がなくなっていきます。その時の船頭たちが先祖代々の仕事をどうやって守っていくかを考え、観光でやっていこうと決意したのでしょうか。船の運航自体をやめるのは簡単だったろうし反対もあったでしょうが、その決断は偉大だったと思います。それを思った時、僕たちに今できることは何かを考えるようになりました。」

今では、筏復活のプロジェクトに、林業大学の学生さんが木を伐り出す部分で関与してくれているし、京都学園大学の学生さんが筏を繋ぐ伝統的な金具『カン』の作成に関わってくれています。こうした若い人たちへの広がりも、将来へ繋がるものとして嬉しいですね。」



河原林洋さん。「僕らの時代で結果は出ない。ただ将来子どもたちが川を思い出すきっかけづくりになれば。」

「私たちの取り組みが、かつてのように上流と下流を繋ぐきっかけになれば」

もうお一人この取り組みに関わり、ご自身も船頭である河原林さんにもお話を伺いました。「私は20年前に船頭になりました。そこで感じたのは、年間30万人が川下りに訪れる川にしては、あまりにも汚れているということ。当初は自分たちが出したゴミじゃないからしょうがない、という意識でしたが、約10年前にご縁があり、流域の美化活動に取り組まれる団体の方と知り合いました。それを契機に、川からゴミがなくなるにはどうすれ

「自然は人間が考えている以上のものを出してきます。特に災害などが出たときなど、ダムや河川管理について上流と下流の意識が食い違い、ともすれば悪者探しになってしまいます。でも昔から、山は豊かな自然の恵みで都を潤し、都はその対価でまた山を潤してきた。それぞれだけで成り立っていたわけではありません。川に関わる人間としてのアプローチを考えると、私たちの取り組みが、かつてのように、上流と下流を繋ぐきっかけになればと思っています。」

講演会のご案内

—京をつくった筏—60年ぶりの復活プロジェクト—

日時 10月29日(土) 13時半～16時

場所 京都学園大学 京都太秦キャンパスみらいホール(北館3F)

内容 講演「京の筏—その歴史と復活への道程」 手塚恵子(京都学園大学人文学部教授)
実演「平成の筏士による筏組み」 河原林洋(京筏組 保津川下り船頭)

入場無料

事前申し込み不要

主催：京都学園大学人文学部、人間文化学会

後援：京都府(予定)、京都市、亀岡市、京都モデルフォレスト協会、プロジェクト保津川、京筏組

参考文献：『京の筏コモンズとしての保津川』 ナカニシヤ出版

「よみがえれ!京の筏」京筏組リーフレット(保津川筏復活プロジェクト連絡協議会)

木の良さを見直し、もっと木を使うことによって
山を守ってもらいたと思いますね。



なか さか あきら
北桑木材センター 中坂 昭さん



森林の現状を考える 木材市場 — 木材流通の現場から

山との関わりと流通の変遷

山で育って、学校も木のことばかり勉強してきました。京都府立京都農林学校（当時）を出て、昭和 21 年から 26 年まで京都府庁の林務課にいました。その後叔父と一緒に、電柱に使われる木材を納品する仕事に就きました。それから次第に電柱が木柱からコンクリート製に変えられていって取扱いが減る中で、昭和 34 年、資金を貸してくれ



る人がいて、山の商売をはじめました。

最初買ったのは当時15万円の山。そこから徐々に取り扱いを増やしていきました。

そのなかで、松阪、奈良、岐阜と、あちこちの木材市場をまわるようになりました。

このあたり（北桑）の木は、長い間、筏にして川を流して嵯峨の貯木場まで運び、流通していました。筏がなくなってトラック輸送にきりかわっても、嵯峨まで持って行っていった。その中で「市場をしたらどうだろう」と思いついた。

地元の木は地元で売ろう

当初は福知山で市場の開設を検討していましたが、ある時知人に「北桑出身ならスギもヒノキも自分のところにいいのがあるだろう」と言われました。そこにたまたま京北に土地を買っていた人を含め、木材を扱っている知り合いが6人集まりま

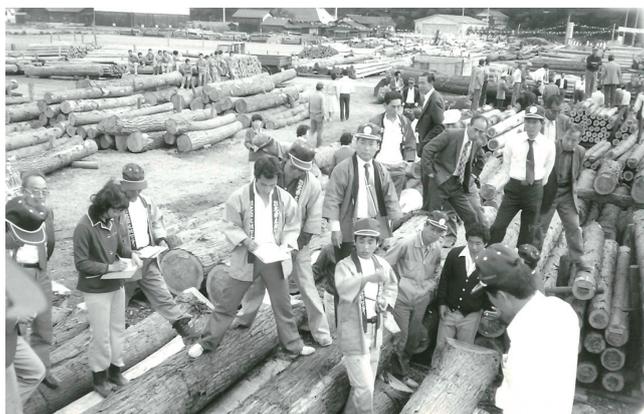
した。

昭和45年1月28日、初めての入札会をしました。京北町の料亭で入札市を行い、予想以上の売上高で、結果全て売り切りました。続けて3回売ったら3回とも成功だった。こんなに成功するならきちんとした組織をつくろうと、「北桑木材センター」を設立しました。



「山をよくしたい」という哲学

木はなんで売れるのか、木が高く売れることで山が育つ。どうやって利益をうまく山に還すのか。もちろん市場として経費はいただくが、きちっとした手数料を出してやろうと考えました。設立に関わった6人が全員木材を扱っているので、木材を集めるための経費はそうかからない。木材のながれを他府県を含めあちこちで見ているので、そのへんのことはわかりました。当時の既存の市場の手数料は他府県よりも高かった。価格の高い材ならその差で遠くの市場に持って行っても割があってしまうことがあるのです。だからここで、それまでより低い手数料でやりました。



市場開設15年（昭和59年）当時。売上は16億円を超えた

他から「田舎もんの素人が田舎でやって2年と持つものか」と言われたが、ありがたいことにお客さんはずっと来てくれましたね。

木は宝、木を使うことで山を守るべき

山の有り方を見ていて思うのは、戦時中は強制伐採があり、戦後人工林を植え続けたあと、今「間伐が必要」というのはそのとおりだが、間伐した後のことを充分に考えているか、ということです。

市場から見れば、今、太い木は売りにくいという状況です。木材の使い方が変わってきて、構造材としては使われにくくなったからです。集成材を製造するときにはむしろ、太すぎる木よりも頃合いの木の方が機械に入れやすい。山の現場を考えても、木は水を蓄えるとそれだけ重くなり、表層が崩れやすくなるので、太くなる前に使ったほうがいいと思います。

山にある木がどうなっているかによって、どんな木を使わないといけないかを考える必要があります。木は宝ですが、無計画に残してよいものではありません。人の手が入った山は、木を使ってもらわないとよくなりません。木の良さを見直し、もっと木を使うことによって山を守ってもらいたいと思いますね。



PROFILE

中坂昭（なかさか あきら）
株式会社北桑木材センター代表取締役会長

京都の 森の仲間たち

— 森林づくり団体紹介 —

男山区区有林管理委員会 中村さん、上田さん

男山には、区有林が40haほどあります。地元の山は、昭和40年代の中頃までは薪の収集などで人が入っていましたが、ここ30年間ほどすっかり利用されなくなり、誰も手を入れていなかったんです。私有林も、所有者すら自分のところの山がどこで、どんな様子になっているかほとんどわかっていない状況になっていました。造林がされている場所もありますが、今ではヒノキ林にも竹林が入り込んで、うっそうとしたジャングルのような。特に竹は、この30年で35倍に増えてしまっています。

そこでこのままではいけない、と、平成22年度から区長の諮問機関として区有林管理委員会を立ち上げました。過去の区の役員経験者など10名ほどで組織し、年に1回区有林の下草刈から始めました。完全なボランティアです。徐々にメンバーを増やし、現在では18名の仲間が集まってやっています。一度始めたことは維持していかないとはいけません。私たちは声かけ役として、そういうルールが引ければよい、と思っていました。

構成員は定年後のメンバーが多く、最高齢は84歳。昔の山の様子を知る人が覗きに来て声をかけてくる、ということがありがたい。今は山の様子を知らない人がほとんどですから。3年前からは林野庁の交付金を活用し、区民を巻き込んだ活動をはじめました。年3回ほどの竹林整備と、春にはタケノコ掘りもしています。このあたりの土は軟らかい赤土で、とても美味しいタケノコがとれるんですよ。回覧板をまわして呼びかけたところ、60人近い方の参加がありました。行事に参加してもらうことで、山や竹林の様子が見てもらえる。3年も放置したらすぐ元通りになってしまうというの感覚としてわかります。楽しみながら自分たちの地元の山にふれて、関心を持ってもらえたらいいと思っています。

▶ 左 中村さん 右 上田さん



▶ 竹林整備の様子



▶ 地元住民も多数参加したタケノコ掘り



せっかくここまでやってきて、このあとをどうするか。資金面や人材面など課題もあります。誰もしんどい思いをするのはイヤ、でも誰かが先導しないとイケない。手入れをした山の様子が見違えるのを見てもらうためにも、イベントをきっかけに山に入ってもらいたい。子ども達が山に行く機会も減っていますが、まずは大人が関心をもたないとね。今は、きれいになってきた区有林の中に公園を整備しようとしています。山の少し高台になっているところから、天橋立が一文字に見えるんです。この眺めを地元の人にも、訪れる人にも目に焼き付けてもらえるようになればと思っています。

団体プロフィール

男山区区有林管理委員会

設立：平成21年

活動地：与謝野町男山

活動概要：里山林の保全、竹林の整備など



豊かな森を次世代へ

第40回全国育樹祭開催に向けて

平成28年5月

京都府内に新たに2つの「緑の少年団」が誕生しました

平成28年5月6日に、京丹波町で和知小学校緑の少年団が、5月28日に南丹市で美山緑の少年団が、それぞれ結成されました。協会からそれぞれの結団式に出席し、今後緑と親しみ、緑を守り育てる活動をされる皆さんに、お祝いのメッセージをお伝えしました。これにより、府内の少年団は26団となります。



緑の募金事業

「緑の少年団指導者研修交流会」開催

4月24日(日)、南丹市日吉町において、京都府緑の少年団連絡会との共催で、府内で活動中の、また設立を予定されている4団11名の指導者の方々にご参加いただきました。

前半は、日本アウトドアネットワーク(JON)安全部員の砂山真一氏を講師にお招きし、「リスクマネジメントの基礎知識」として講演と実習を実施。後半は、各緑の少年団の活動状況や今後の予定などについて意見交換を行いました。協会では、今後も、緑の募金を活用した緑の少年団の活動支援事業などを行っていきます。



つなぐ・広がる 緑のリレープロジェクト「森の教室」京都で初めて開催されました(南丹市、宇治市)

国土緑化推進機構が全国で展開する「森の教室」が、第40回全国育樹祭開催を記念して、京都府で初めて開催されました。18日には南丹市の日吉中央保育所、胡麻保育所の皆さん、19日には宇治市のひいらぎ保育園の皆さんが、森の楽しさを伝え、学ぶキャラクターショーや苗木植えなどを体験しました。国土緑化推進機構が主催し、株式会社ファミリーマートが「夢の掛け橋募金」を通じて特別協力する「森の教室」は、平成24年6月から全国各地で実施され、これまで100カ所以上、一万人を超える園児が参加しています。

皆さんの「森への思い」を式典会場まで届けましょう

森へのリレーメッセージ募集【~9月30日(金)まで】

皆さんの「森への思い」を込めたメッセージカードを式典会場(府民の森ひよし・南丹市)まで届けます。集まったメッセージカードは、式典会場中央に設置されるモニュメントを彩ります。

募集するメッセージ

● 未来に残したい森への思い ● 森の好きなおとこ ● 大切な森の思い出 など

受付場所

京都府庁、各広域振興局、京都林務事務所、市町村役場など

問い合わせ先

京都府モデルフォレスト・全国育樹祭推進課 TEL075-414-5025



▲ 出発の様子



事務局からのお知らせ—活動報告—



平成28年4月26日 京都市中京区内

平成27年度森林づくり基金活用事業報告会開催

京都府林業会館において、企業からいただいた寄付金を原資として府内各地で進められている森林整備について、それぞれの取り組みをご報告いただきました。当日は、森林づくり基金運営委員会委員、企業、森林組合、NPO、林業事業体、個人、行政など約30名の皆さんにご参加いただき、質疑でも企業、団体など多様な視点から、森林づくりに関わる積極的な意見が交わされました。



平成28年5月23日 京都市上京区内

平成28年度定時総会及び講演会を開催

京都ガーデンパレスにおいて、約200名の参加により、定時総会及び講演会を開催しました。平成27年度決算、役員を選任が承認されたほか、先の理事会で承認された中期経営計画及び平成28年度事業計画及び収支予算について報告しました。終了後は、京都大学大学院農学研究科高柳講師により「森林づくりと野生動物」と題して講演いただきました。



平成28年5月14日 京都市左京区内

学校環境緑化モデル事業完成記念式典

株式会社ローソンの社会貢献活動として、各店舗に設置されている「緑の募金箱」に寄せられる「ローソン緑の募金」を活用して実施された緑化事業の完成記念式典が、高野川保育園において、関係者や園児が出席して行われました。京都府内での小中学校等への緑化事業活動は今回で15件目となります。



平成28年6月25日、26日 与謝野町、木津川市

森林・山村多面的機能発揮対策事業活動組織現地見学会・安全講習会を開催

府内で林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策事業に取り組んでおられる団体の皆さんを対象に、与謝野町の男山区区有林管理委員会、木津川市の鹿背山倶楽部のそれぞれの活動地において、現地見学会と林災防安全インストラクターによる安全講習を実施しました。両日あわせて80名ほどの皆さんにご参加いただき、活動組織間での情報交換をしていただきました。



緑の募金ご協力をお願い

緑の募金は、森づくりや緑化活動、「緑の少年団」活動に使われています。皆様のご協力をお願いいたします。

● 郵便振替や銀行振込で

どこでも、誰でも募金ができます。

1. 郵便振替

00990-1-83253

公益社団法人

京都モデルフォレスト協会

2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

理事長 柏原 康夫

木製品を使うことで元気な森林を増やしましょう

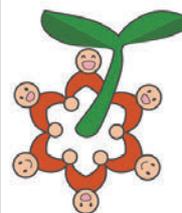
※府内産木材を使用したグッズによる募金も可能です。
(詳しくは事務局までお尋ねください)



● 商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。

EIKOH
英興株式会社



平成28年10月8日(土)、9日(日)開催

第40回

全国育樹祭

育樹の輪 ひろげる森と 木の文化

発行:公益社団法人 京都モデルフォレスト協会
〒604-8424 京都市中京区西ノ京糰ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <http://www.kyoto-modelforest.jp> [facebook](https://www.facebook.com/KyotoModelForest) <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

2016年7月発行

入会案内資料をご希望の方は
ご連絡ください。

